

# せわやがとカラ情報

## 一隅を照らす十島の教育

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

### 二月…「関心」は「形」となって



十島村教育長 原口 英典

十島村教育委員会事務局に働いているAさん、Bさん、Cさん。

Aさんは、半年契約の最長1年間の雇用期間の職員。昨年7月から勤務して以来、割り当てられた仕事のほか、目に見えない各島々の先生方や子どもたちに思いと関心を寄せ、仕事をしている素敵な女性だ。

1月のある日、二階にある職場の、一階階段の踊り場の壁に、ことし新聞に掲載された本村の「子供のうた」や「かわなべ青の俳句」に入賞した俳句が、下の写真のような形となって掲示されているのを目にした。足が止まった。

Aさんがしてくれたのだ。仕事ぶりからしてすぐAさんと分かった。星の吹き出しには「俳句」が、雲の吹き出しには「子供のうた」が。

改めて掲示されている一枚一枚のAさんによる手づくり作品の内容を読んでみる。直接会ったこともない子どもたちの姿をきっと思い描きながらであつたらう、子どもたちの俳句や詩の一字一文字をパソコンで打ち込み、切り取り、壁に掲載してくれたAさん。Aさんの島に寄せる熱い思いがひしひしと伝わってきて、しばし動けなかった。いるのだ、こんな人が。与えられたことだけやっけても何も問題はないだろうに、

Aさんは、そのバリアを越えて、自分なりに島に「関心」を寄せていこうとしている。その「関心」は「形」となって芽吹いていく。Aさんに光あれ。仕事に熱あれ。

またBさんも、Cさんも同じく、1年ごとの契約での雇用職種だ。Bさんは、朝、誰よりも早く来て、人知れず、職員の机を丁寧に拭いてくれる。Cさんは、毎朝、ほうきを握って、一人丹念に、役場と教育委員会の建物の前の道路を掃いている。今は、落ち葉が大変だ。夏場は、桜島の灰が大変だ。

言われないままに、誰よりも早く、しかも率先して動くこの三人の姿に、いつも人としての生き方を教えられている。



### 【コンクール受賞】

平成25年度「家庭の日」絵画・ポスター・標語  
(中之島小学校)

優良賞 平泉 公大 (小1)

第50回記念南日本硬筆展

(平島小中学校諏訪之瀬島分校)

推薦 菅野 美沙希 (小3)

金賞 山中 悠暉 (小2)

金森 七海 (小3)

菅野 悠里 (中1)

銀賞 山中 雪嘉 (小5)

鎌田 健吾 (中1)

伊東 聖真 (中2)

第61回鹿児島県理科研究記録展 自由研究の部

(平島小中学校諏訪之瀬島分校)

入選 菅野 美沙希 (小3)

入選 菅野 悠里 (中1)

平成25年度 明るい選挙啓発作文

(平島小中学校諏訪之瀬島分校)

優秀賞 伊東 聖真 (中2)

### 灯 シリーズ——十島の学校にやってきて 口之島小学校2年 野網 風牙

ぼくは、四月のおわりごろ、口之島にきました。口之島の学校へてん入するときに、心ばいなことがひとつありました。それは、友だちとなかよくできるかどうかです。さいしょはドキドキしたけれど、今では、みんなと楽しくあそぶことができます。しんゆうもできました。

口之島にきてから、ぼくは、田うえや魚つり、海での水えいなどいろいろなことをがんばってきました。そして、ぼくがこれからはもっとがんばろうと思っていることは、空手です。ぶかつどうで空手をならいはじめたばかりだからです。今はまだ、あまりできることがありません。でも、いつかし合でかてるようになるまで、れんしゅうをいっぱいして強くなりたいと思っています。

### 絆

#### シリーズ——山海留学生として学ぶ

口之島で学んだ感謝の心 ③

肥後 杏寿 現在高3年生<堺市>(口之島中)

山海留学が決まってから、母に何度も「感謝の気持ちを忘れずに」と言われましたが、その時は、「感謝する」ということがわかっていませんでした。でも、今はよくわかります。地域の方々、同級生のまちさん、先生方。

みんなの助けがいつもあったから、こんな素晴らしい体験がたくさんでき、今まで気付かなかったことにもたくさん気付きました。でも、やっぱり一番感謝しなきゃいけないと思ってるのは、私を二年間世話してくれた祖母です。私は素直になれないことも多く、「手伝いをしなさい」「自分のことは自分でしなさい」という祖母の言葉に、つい怒ってました。でも、祖母の立場で考えてみると、孫とはいえ、中学生を二人も預かって世話をする大変さ、私たち二人をちゃんと育てたいという思いが見えてきました。「祖母は私が自立できるように、心を鬼にして叱ってくれていたんだ」と祖母の厳しさの中にある深い愛情に気が付きました。振り返ると祖母は毎日、おいしいご飯を作ってくれました。PTAにも必ず学校に来てくれました。私は自分の

気持ちばかりに目がいて、祖母の気持ちを考えていませんでした。私を本当の親のように、温かく、厳しく育ててくれた祖母の深い愛情に、今、心から感謝したいです。

「おばあちゃん、毎日ご飯を作ってくれてありがどう。遠足のお弁当は、いつも豪華でとってもおいしかったよ。」

私は、二年間の山海留学で、私自身の気持ちが少し分かるようになりました。初めての体験に喜びを感じ、人との出会いに感動し、別れに寂しさを感じ、両親や祖母のありがたみを感じる事ができました。中学校生活を振り返ってみると、一年生の頃からちゃんと勉強をしていれば良かったと後悔しています。口之島に山海留学したから、後悔することができるようになったと思います。また自分の気持ちが分からなくなった時は、祖母の元に帰ってきて、自分自身を見つめ直したいと思っています。

### 【第15回南九州市かわなべ青の俳句】

永吉 美悠 (口之島小学校5年)  
「特選」 夜の道 ほたると月と 友だちと

山元 柊星 (口之島小学校4年)  
「入選」 赤とんぼ 夕日のをせて 明日のせて

中村 久光 (宝島小学校5年)  
「入選」 姉乗せた フェリーの汽笛に むねおどる

宮山 雄輝 (宝島中学校2年)  
「特選」 秋の海 糸を垂らせば 鱈跳ね

早川 千穂子 (宝島中学校小宝島分校3年)  
「入選」 水浴びて 暑さをしのぐ とかげかな

### 十島村の小・中学校からのメッセージ ⑤

宝島小学校 教諭 池田 恵美

「10年後の自分は島で小学校の先生をしている。」小学6年生の時に、卒業文集に書いた言葉である。

小さい頃から、国・算・理・社などいろいろなことが学べ、道徳が大切にされ、友達と楽しく過ごすことができる小学校が大好きだった。そして大人になってからも、子どもの成長を応援でき、それを一緒に喜ぶことができる小学校の先生になりたいとずっと願っていた。

また、自然が大好きで「いつか島で暮らしたい。」と島での生活に憧れ、大学時代は島へ5回行った。友達と屋久島をマウンテンバイクで一周した時は、へとへとになったがとても楽しかった。

そして今、私は小学校の先生になり、宝島をクロスバイクで走り、その友達は、屋久島で登山のガイドをしている。小さい頃からの夢が叶い、とてもありがたく幸せに感じる。

宝島は、まさに理想としていた島で、子どもたちは素直で明るく、保護者や里親、島の方々は温かく、協力的で、一緒にいてとても楽しい。また、海や山が美しく、生き物もたくさんいる。

休みの日は、スケッチブックや色鉛筆、シート、クッション、本、りんごなどを自転車のかごに入れ、気に入った場所で音楽を聴きながらスケッチをするのが最高に幸せである。また、寝っ転がりながら澄み切った青い空を見上げ、好きな本を読んだり、りんごをかじりながら海辺を散歩したりすると、ずっとこの島にいたいと感じる。

色とりどりのサンゴや魚が美しい海も大好きで、去年は5月から10月まで泳いだ。また、春は暖かな夕陽に包まれ、優しく輝く海に感動して油絵を描き、夏は、燃える太陽や深い青色の海、濃い緑の山に感動して、水彩画を描いた。

宝島に来て2年が経とうとする今、自分の置かれた環境に感謝し、一日一日を大切に過ごしたいと強く感じる。

### 教員仲間である「あなた」への私からのメッセージ

「全てがちょうど良い。」私の好きな言葉である。大変なこともあるが、成長できるチャンスだと思い、今できることを精一杯行うよう心がけている。またいろいろと教えてください。